



新年あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いたします



昨年中は、頸城中学校の様々な教育活動に、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご支援をいただきました。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今年も昨年同様、よろしくお願いたします。

学校長 田中 敦



思いやりの心 ～始業式での校長講話より～

数年前に新潟日報の「窓」に掲載されていた当時9歳の小学生が書いた作文を紹介します。よく聞いてください。原文のまま読みます。

やさしい心のかんごしに

わたしのゆめは、かんごしになることです。

去年は、自然さい害がたくさんありました。水害で家が流されたり、地しんで家がこわれたりするシーンがたくさんありました。さい害にあった人はショックで笑顔がなくなっていました。

それをニュースで見た時、ボランティアをして人の役に立ちたいと思いました。ボランティアをして、コミュニケーションでさい害にあった人の笑顔をとりにどしたいと思いました。

そして、さらにわたしは、もっと人の役に立ちたいと思い、かんごしになりたいと思いました。わたしは、かんごしになったら、さい害や病気で苦しんでいる人たちをコミュニケーションで笑顔にしたいです。

そのためには、やさしい言葉づかいで、いろんな人と話せるようにします。相手の気持ちを考えて話せるようにします。たくさんの本を読んで思いやりの心を学びたいと思います。

わたしのゆめがかなったらやさしい心を持ったかんごしになって、いろんな人から好かれる人になりたいです。ゆめに向かってがんばります。

(新潟日報 平成31年1月9日朝刊「窓」より ※著作者の許諾を得て掲載)

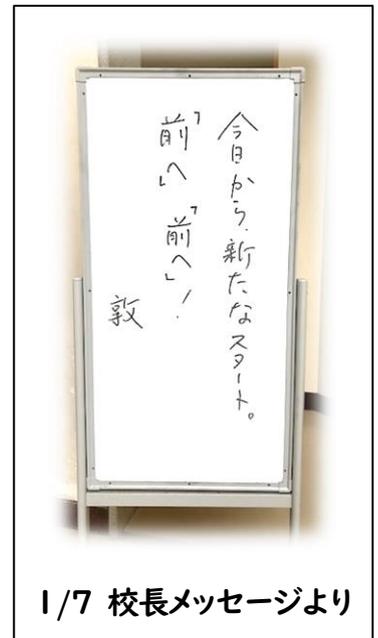
小学校4年生の児童が書いたとても素敵な作文です。この作文の中には筆者の思いやりの心が感じられる部分は何カ所かあります。

「ボランティアをして人の役に立ちたい」「コミュニケーションでさい害にあった人の笑顔をとりにどしたい」「もっと人の役に立ちたいと思い、かんごしになりたい」「さい害や病気で苦しんでいる人たちをコミュニケーションで笑顔にしたい」「やさしい言葉づかい」「相手の気持ちを考えて話せるようにしたい」「やさしい心を持ったかんごしになって」などがそれにあたります。

自分自身が困っている人に対してどんなことができるのか、していきたいのか。思いやりの心がたくさんつまっています。そのためには自分自身がどのように変わっていかなければならないのかを真剣に考えています。

このような崇高な気持ちで看護師という仕事に就けば、きっと患者さん思いの素晴らしい看護師になるのではないかと思います。

皆さんが将来就く仕事は様々でしょうが、相手や周囲に対し思いやりの心を持てれば、よい仕事もできるでしょうし、だれからも愛される人になれると思います。そんな人たちが世の中に満ちあふれば、生活しやすい幸せな世の中になるのではないのでしょうか。皆さんが、そのようになってくれることを期待しています。**年の初めにあたり自分の夢や目標の実現に向けて努力していく3学期**にしてほしいと思います。



1/7 校長メッセージより

職業講話「キャリアセミナー」～自分の将来について考える～

上越市内の全中学校では、2年生の夏に5日間の職場体験学習を実施しています。働くことの喜びや厳しさを体験から感じとり、勤労の意義や意味について学びます。ところが、今年度は、コロナ禍のため市内全中学校で職場体験学習が中止となってしまいました。

そこで頸城中では、生徒が職業や勤労の意義について考え、将来に目を向けられる学びの機会を保障するため、12月23日（水）に「キャリアセミナー」と称した職業講話を実施しました。

講師は保護者や地域の事業所の方から全面的にご協力いただき、7名の講師をお迎えすることができました。生徒は7講座から2講座を選択し、「仕事の概要」「やりがいや魅力」「中学生が身に付けておくべき資質」等のお話を聞きしました。仕事についてあまり考えたことのない生徒が大半だったようですが、実際に働く方の講話から様々な事を感じとることができました。



地域行政（市役所）のお仕事



フラワーアレンジメントのお仕事

人に関わって、そこから生まれる楽しさや、嬉しさがあることを知り、自分も将来仕事をしていく時に、つながりを大切にしていきたいな、何事にも挑戦していきたいな、と思いました。やりがいをお聞きして、すごく楽しそうだなと感じました。

常識的な事を当たり前にして、嫌な事でも後回しにせず、今できることを全力でやるのが大切だと思った。自分がまだ知らない職業がたくさんあるから、これから、たくさんの人、職業を知って、色々な事に目を向けて考えていくのが大切だと思う。